




.....

◆ **第 4 章 基本施策と基本方向**

.....



1. 子どものスポーツ機会の充実

目指すべき主なゴール



幼児期から学童期、青年期の子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、また、子どもの運動・スポーツ活動が豊かなものとなるよう、子どもの体育・スポーツ活動の充実に総合的に取り組めます。

そのため、学校における運動・スポーツを中心としながら、幼児期から学童期まで、子どもの年齢や学年に合わせた体育・スポーツ活動の充実を目指します。

また、子どもたちが楽しく安全にスポーツができるよう、子どもを取り巻くスポーツ環境の充実を目指すとともに、より多くのスポーツにチャレンジできる場と機会を提供します。

基本施策

1 幼児期における運動・スポーツ機会の充実

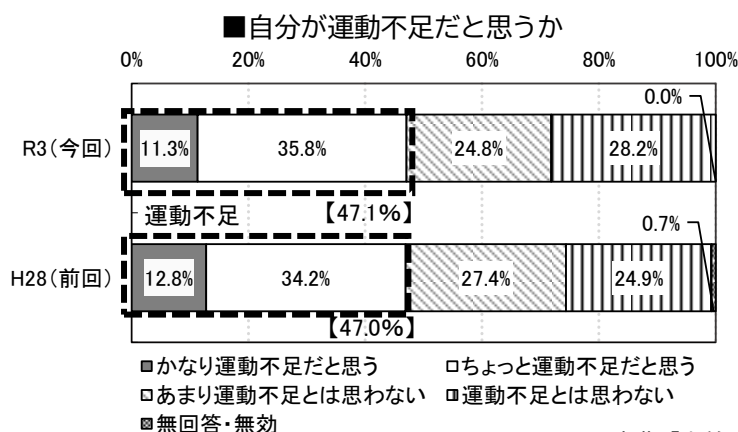
◆現状と課題

少子化や社会情勢の変化により、幼児期からの身体活動・運動などの多様な動きを身につける機会が減ってきています。幼児期の運動は、健康的な身体を育成するのみならず、友達や保護者と遊んだり運動したりするなかで、主体性や社会性を育む効果も期待されており、生涯にわたって豊かな人生を送るための基盤づくりです。また、幼児期の運動は学童期の運動能力に影響するとも言われており、体を動かす気持ちよさや楽しさを経験することができる取組が大切です。

児童生徒対象のアンケートによると「運動不足」と感じている児童生徒は令和3年度で47.1%と半数近くに達しており、平成28年度からも0.1ポイント増加していることから、幼稚園・保育所等と連携し、家庭・地域が一体となった多様な運動・スポーツの機会を提供し、運動の習慣付けを行うことが重要です。

◆施策の方針

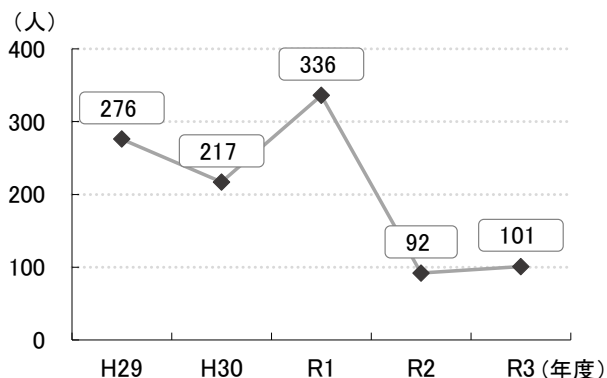
○幼児期からの継続的なスポーツ活動の推進など、子どもを取り巻くスポーツ環境の充実に取り組めます。



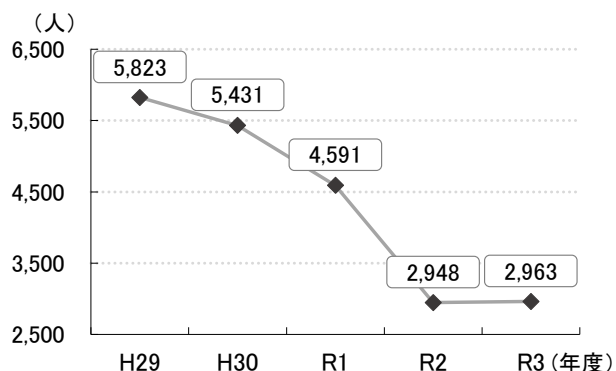
出典：「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(児童生徒)

◇幼児期から対象の各事業参加者数

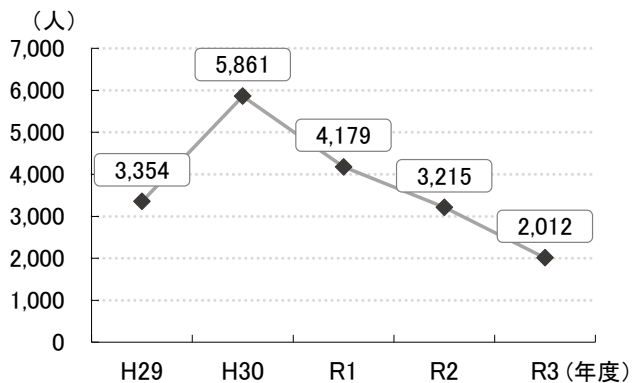
■水泳教室参加者数



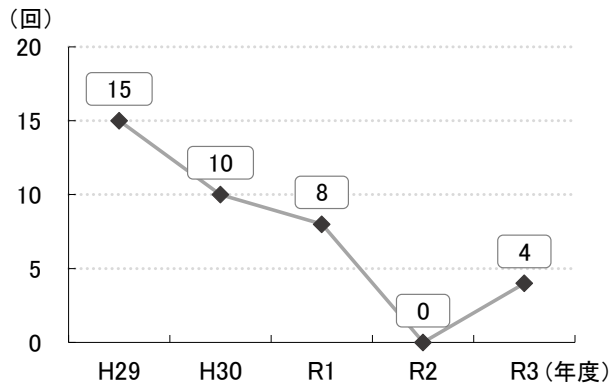
■プレ・すぼ〜つ教室参加者数(延べ)



■男子サッカー教室参加者数(延べ)



■水戸ホーリーホックススポーツ体験教室開催数



資料:スポーツ推進課



▲茨城ロボッツバスケットボール教室



▲プレ・すぼ〜つ教室

基本方向① 幼児期から体を動かす機会づくり

より多くのスポーツにチャレンジする場と機会の充実のため、幼児期から学童期まで、子どもの年齢や学年に合わせたスポーツに取り組む機会を提供します。

主な取組

● スポーツ教室（水泳教室・親子スキー教室等）

【スポーツ推進課】 継続

幼児期から学童期まで、子どもの年齢や学年に合わせた水泳教室や親子スキー教室等のスポーツ教室を実施する。

【指標】スポーツ教室の回数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
6回	7回	8回	10回

● プレ・すぽ〜つ教室

【スポーツ推進課】 重点 継続

子どもたちがスポーツにふれあうきっかけをつくるとともに、運動好きの子どもを育て、意欲や主体性、向上心などの醸成を目指す。

【指標】プレ・すぽ〜つ教室参加者(延べ)

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
5,783 人	2,963 人	6,400 人	7,000 人

基本方向② 子どもが主体的に取り組む仕組みづくり

子どもが運動・スポーツに主体的に取り組みたくなるきっかけづくりとして、質の高い体験活動の提供など積極的なチャレンジに対する支援を行います。

主な取組

● 夢先生派遣事業

【スポーツ推進課】

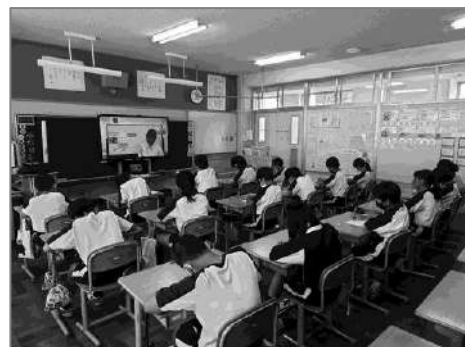
重点

継続

トップアスリート*¹を夢先生として迎えた「夢の教室」(小学5年生・中学2年生対象)を開催し、夢を持つことの大切さやスポーツの素晴らしさを学ぶ機会を創出するとともに、トップアスリートとふれあうことでスポーツに親しむことへの動機づけ、興味・関心づくりなど運動・スポーツに対する活動意欲を高め、主体的に運動・スポーツに親しむ習慣を身につけさせる。

【指標】夢の教室開催校数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
12校	全校実施	全校	全校



▲夢の教室(オンライン実施)

*¹ トップアスリート:世界選手権大会等において好成績を収めているアスリートや、中央競技団体の強化選手など。

◆現状と課題

今日、子どもを取り巻く環境やライフスタイル等の変化により、全国的に子どもたちの体力・運動能力が低下傾向にあります。本市の令和3年度に行った体力テストの調査結果（総合得点比較）を見ると、全学年で男女ともに茨城県平均よりも上回っています。また、平成28年度の市平均と比較すると小学4年と中学2年女子、小学5年と小学6年、中学3年では男女共に得点が高くなっており、今後も体力・運動能力の維持・向上が期待されることです。

学校体育や運動部活動においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことを重視し、心身ともに調和のとれた健全な子どもを育成していく指導が求められています。

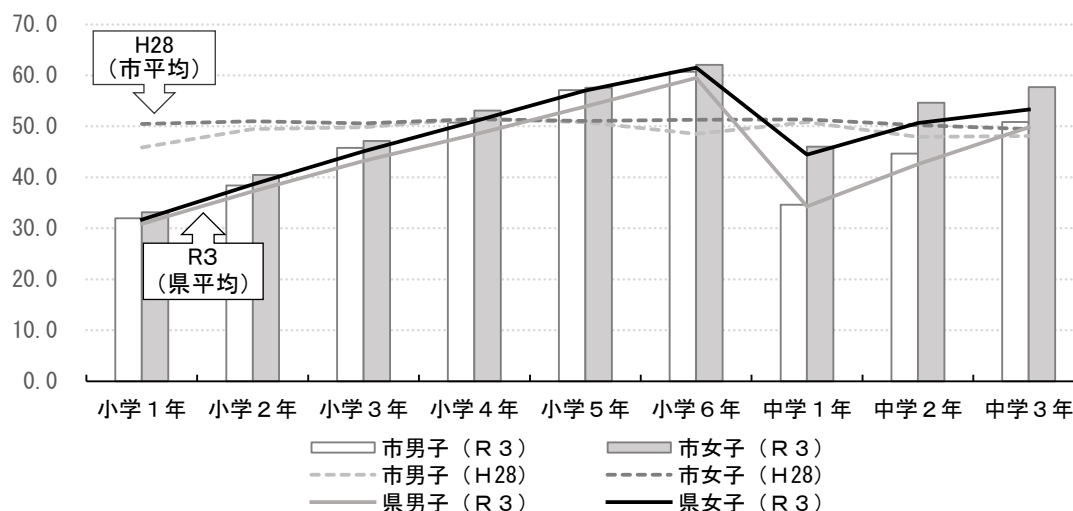
令和3年度実施の児童生徒対象アンケートによると「授業以外でスポーツをしているか」の問で「運動・スポーツはあまりしない」と回答した割合は20.6%となっています。また、しない理由として「やりたいスポーツがない」が最も多く、「うまくできない」「きらい」も上位にあります。

教職員はもとより、地域のスポーツ指導者の活用等による指導の充実を図り、多様なスポーツに取り組める環境や、運動の楽しさが伝わる学習・指導、運動が苦手な子どもでも運動が好きになるよう指導の工夫をしていくことが大切です。特に運動部活動においては、全国的に令和5年度までに学校単位から地域単位の活動に変えていくことが求められており、本市においても、より地域と連携していくことが大切です。

◆施策の方針

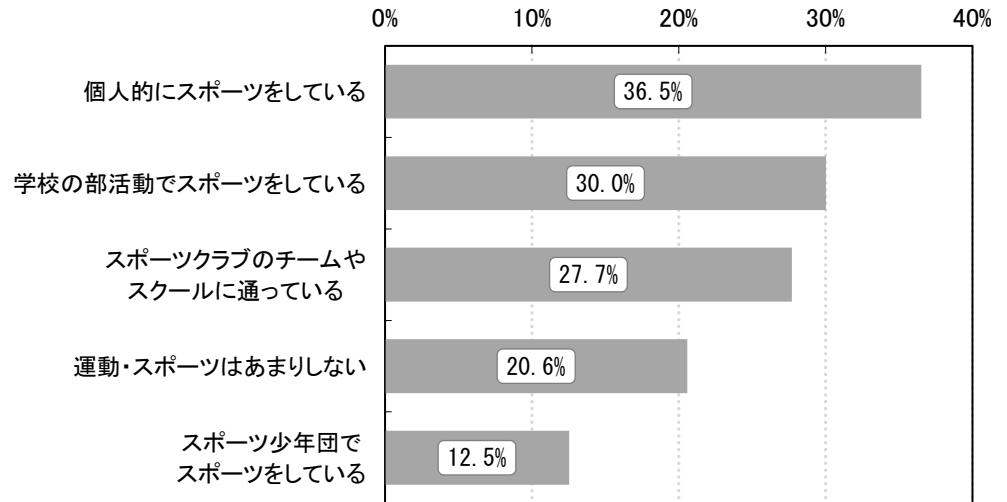
○生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康の保持増進の基礎を培う学校体育・スポーツ活動の充実に取り組みます。

■R3年度 男女別 体力テストの結果
(市の総合得点平均値・県の総合得点平均値比較)

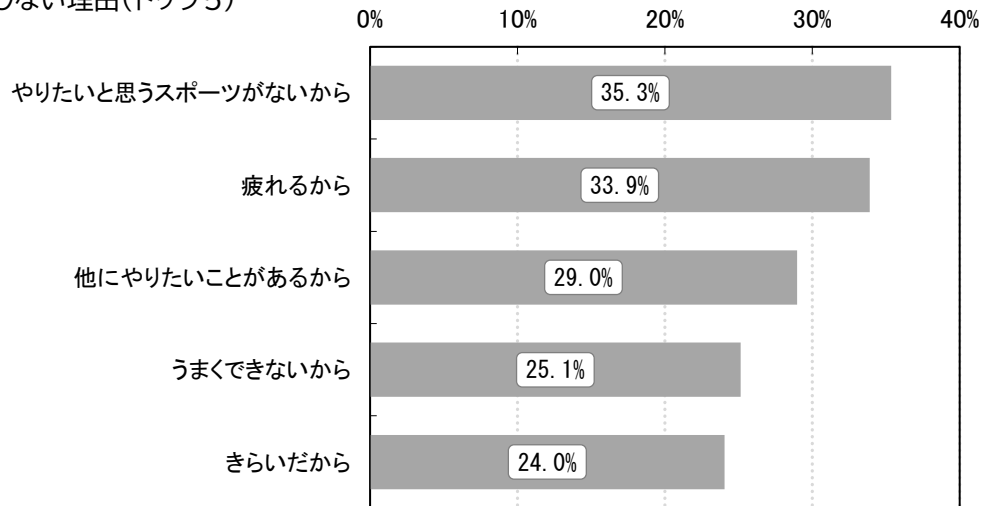


出典:茨城県教育委員会「茨城県児童生徒の体力・運動能力調査」及び教育指導課

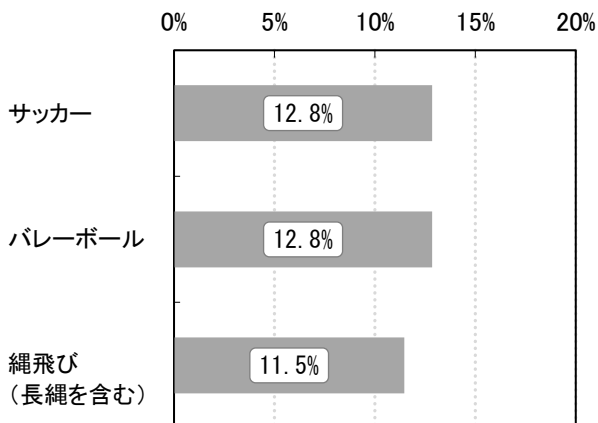
■授業以外でスポーツをしているか(トップ5)



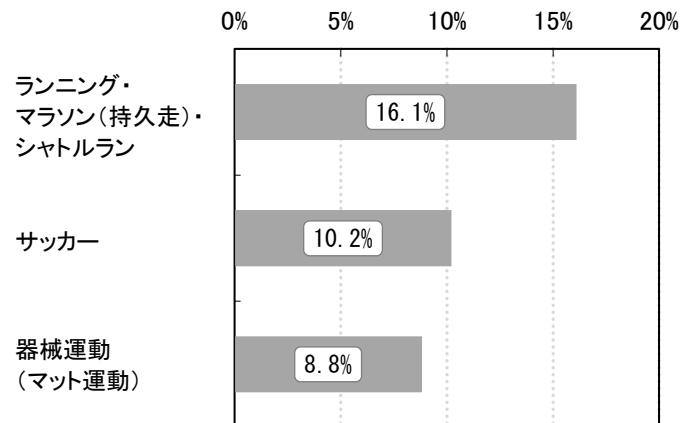
■運動やスポーツをしない理由(トップ5)



■学校体育で好きな科目(トップ3)



■学校体育で苦手な科目(トップ3)



出典：令和3年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(児童生徒)

基本方向① 児童生徒の心身の健康づくり

児童生徒の心身の健康については、心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てます。

主な取組

● 体育指導の工夫・改善

【教育指導課】 継続

小・中・義務教育学校の体育の授業においては、年間を通して児童生徒が適切に運動ができるよう、学習内容を工夫・明確化した年間指導計画を作成する。また、結果を踏まえ次年度に向けた計画の修正を行う。

基本方向② 体力・運動能力の向上

児童生徒の運動に親しむ資質や能力を培う観点を重視し、健康の保持増進と体力の向上を図ります。

主な取組

● 体力の向上

【教育指導課】 重点 継続

体力テストの結果の活用と学校の特色を生かした体力づくりを実践する。
また、運動が苦手な子ども・運動習慣が身につけていない子どもに対する指導の充実を図る。

【指標】体力テストの総合評価が上位(A+B)の児童の割合(小学生)

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
59.1%	50.5%	60.0%	65.0%

【指標】体力テストの総合評価が上位(A+B)の生徒の割合(中学生)

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
60.1%	58.9%	60.0%	65.0%

基本方向③ 運動部活動の充実

運動部活動は、生徒が自発的・自立的に運動スポーツを行い、生涯にわたる健全な心身を培うとともに人格を形成する重要な場であるため、学校教育の一環として、その充実を図ります。また、学校のみならず地域等と連携・協働して、外部指導者等の充実に努めながら、生徒の健康維持や休養、家庭学習時間のあり方等とのバランスの取れた活動となるよう配慮していきます。

さらに、今後運動部活動を持続可能なものとするために地域への移行を推進し、運動部活動の在り方を検討していきます。

主な取組

● 地域人材を活用した指導体制の充実

【スポーツ推進課 教育指導課】

継続

持続可能な部活動を推進していくため、地域の人材や団体等と学校が連携・協働し、人材発掘及び運動部活動の指導体制の充実を図るとともに、地域における部活動の在り方等を検討する。

【指標】市内運動部活動外部指導員数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
16人	22人	20人	25人

● 適切な休養日の設定

【教育指導課】

継続

生徒のバランスのとれた生活や成長へ配慮し、スポーツ障害*1を予防するため、適切な練習時間と休養日（週2日以上）を設定する。



▲運動部活動の様子

*1 スポーツ障害:運動・スポーツをすることで起こる障がいや外傷。長期的に運動・スポーツを行うことによって、過度の負担が積み重なり起こる症状。

◆現状と課題

令和3年度実施の児童生徒対象アンケートによると、「スポーツをするのが好き」な子どもの割合は78.5%と非常に高く、週3日以上スポーツをする子どもの割合も70%を超えており、子ども達のスポーツ実施率は増加しています。一方で、社会情勢等の変化により子どもたちがスポーツを行える場所が減ってきています。特に令和3年度では、「自宅での運動」が増加しており、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）感染拡大による外出自粛等の影響が考えられます。

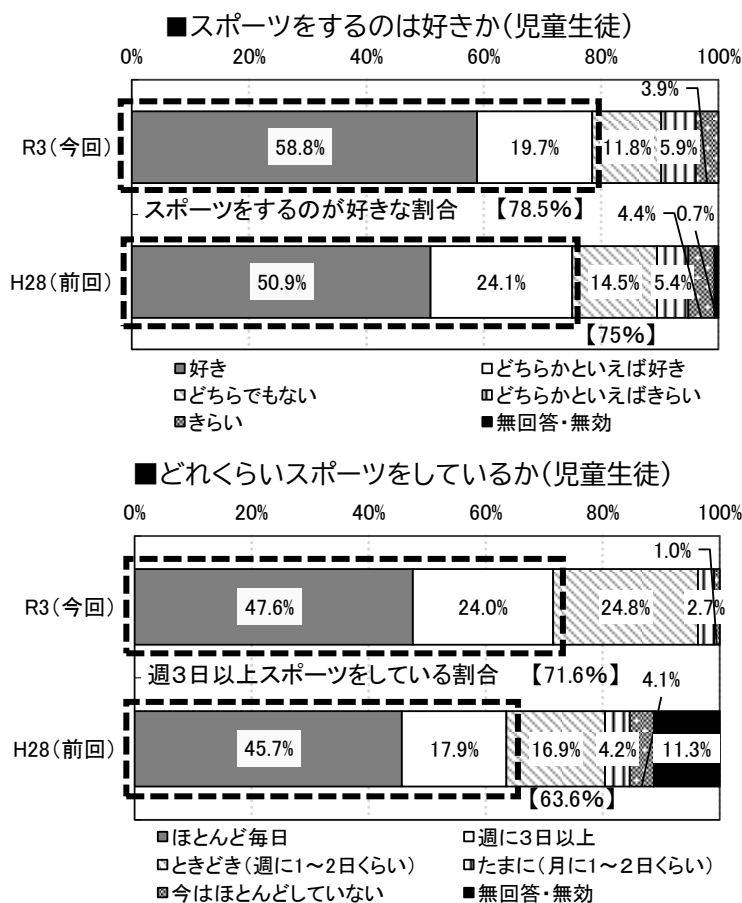
また、アンケートの「どんなきっかけがあれば運動やスポーツをしてみたいか」という問に対し、「友達に誘われる」「好きなスポーツが近くで行われている」という回答が目立つことから、子どもたちが積極的に楽しみながら体を動かすようになるには、仲間と共に楽しめる、身近な生活の場である地域でのスポーツ活動の充実が重要であることがわかります。

さらに、「やりたいスポーツがない」から運動しない子ども達にとって、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりとなるような多様なスポーツを体験できる場も求められています。

子どもたちが、より安全に気軽に運動・スポーツができるよう、環境の整備・充実を図っていく必要があります。

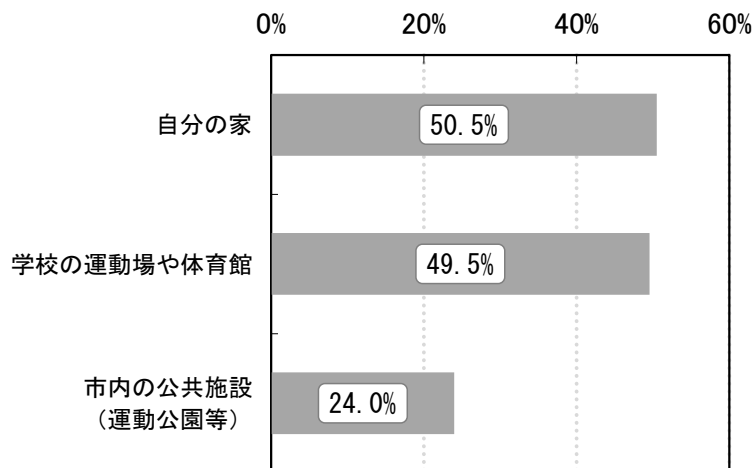
◆施策の方針

○総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などの地域におけるスポーツ活動を支援し、子どもたちが気軽に様々な運動・スポーツを体験できる環境の整備・充実を図ります。

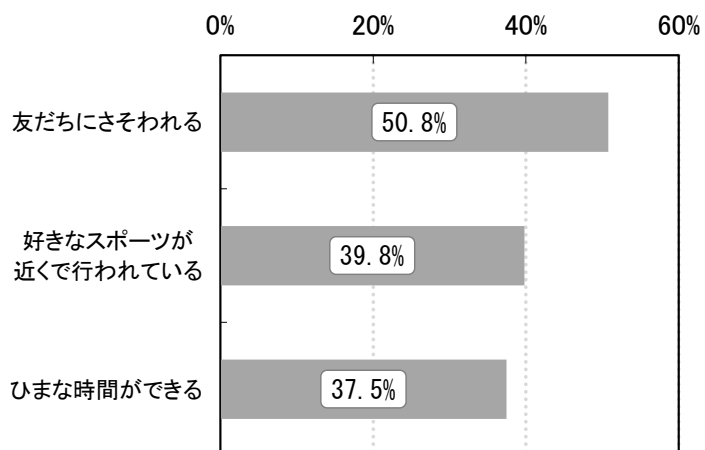


出典:「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(児童生徒)

■ 普段どこでスポーツをしているか



■ どんなきっかけがあれば運動やスポーツをしてみたいと思うか



出典: 令和3年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(児童生徒)



▲ スポーツ少年団

基本方向① 多様なスポーツに取り組める環境づくり（スポーツのきっかけづくり）

子どもが気軽に様々な運動・スポーツを体験できるよう総合型地域スポーツクラブ*¹やスポーツ少年団の活動の支援を行います。

主な取組

● 総合型地域スポーツクラブ活動支援

【スポーツ推進課】

重点

継続

総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、運動・スポーツをする環境の充実を図る。

【指標】スポーツ教室の実施会場数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
7か所	6か所	10 か所	16 か所

● スポーツ少年団活動支援

【スポーツ推進課】

重点

継続

スポーツ少年団の活動を支援し、運動・スポーツをする環境の充実を図る。

【指標】スポーツ少年団の種目数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
8種目	9種目	9種目	10 種目

*¹ 総合型地域スポーツクラブ：地域の人々に年齢・興味・関心、技術・技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する、多種目、多世代、多志向のスポーツクラブ。市内には小美玉スポーツクラブが設立。（令和4年度現在）

基本方向② 子どもの視点で安全なスポーツ環境の整備

子どもが身近な場所で安全・安心に運動・スポーツができるよう、環境の整備・充実を図ります。

主な取組

● 学校体育施設の有効活用

【スポーツ推進課 教育指導課】

継続

子どもたちが放課後などにおいて気軽に学校体育施設を活用できるよう、その方策について検討していく。

● 小美玉市独自の総合型地域スポーツクラブの充実【再掲】(P.59)

【スポーツ推進課】

継続

● スポーツに関する相談機会の提供【再掲】(P.40)

【スポーツ推進課】

継続



▲総合型地域スポーツクラブ



▲スポーツ少年団

2. 生涯スポーツ活動の推進

目指すべき主なゴール



小美玉市の市民が生涯にわたって、運動・スポーツ活動に気軽に取り組むことができるよう、ICT等多様な手法を活用しながら、市民のライフステージ*¹に対応した施策を推進します。

特に、参加率が低い若者や女性、働く世代・子育て世代が気軽に参加できるような施策の強化を図るとともに、ユニバーサルデザイン*²に配慮しながら、高齢者や障がい者が安全に健康づくりやイベント・スポーツ大会に参加できる環境の充実を目指します。

さらに、市民がスポーツをもっと好きになるよう、スポーツに対する意識醸成を図るとともに、小美玉市のスポーツイベントやスポーツ施設に関する情報が市民に届くよう、運動・スポーツ普及のためのPR・啓発を強化します。

基本施策

1 若者・働く世代に対する運動・スポーツの推進

◆現状と課題

本市で週1回以上スポーツを行っている人は、全国調査56.4%（令和3年度スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」）に比べ、35.7%（平成28年度）と、全国平均を下回っています。特に女性や、30～40代の働く世代・子育て世代、次いで20代の若者世代の実施割合が低く、主に「仕事や学業が忙しい」「家事・育児が忙しい」「機会がない」ことが原因としてあげられています。

一方で、「今後どれくらいスポーツがしたいか」の間については、どの世代でも「週1回以上」と回答した割合が60%を超えており、スポーツに対する意欲がうかがえます。

そのため、現在、運動・スポーツを行っていない、実施する機会から遠ざかっている若者世代、働く世代・子育て世代が性別に関わらず、ライフスタイル等に合わせて気軽に親しめる運動・スポーツのプログラムや、運動・スポーツに触れるきっかけとなるようなイベントの開催、スポーツ活動の提供が求められています。

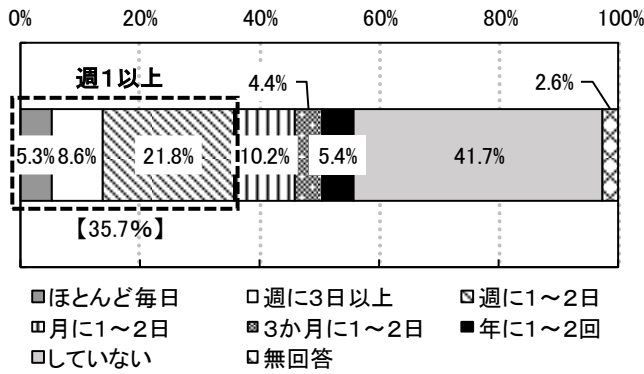
◆施策の方針

○健康・体力の保持増進のみならず、ストレス発散や心のリフレッシュにつながる運動やスポーツを日常的に取り組める環境の構築及び、若者世代、働く世代・子育て世代などライフステージに対応した施策の充実に努めます。

*¹ ライフステージ：入学、卒業、就職、結婚、子どもの誕生、子どもの独立、退職など人生の節目ごとに段階に分けること。

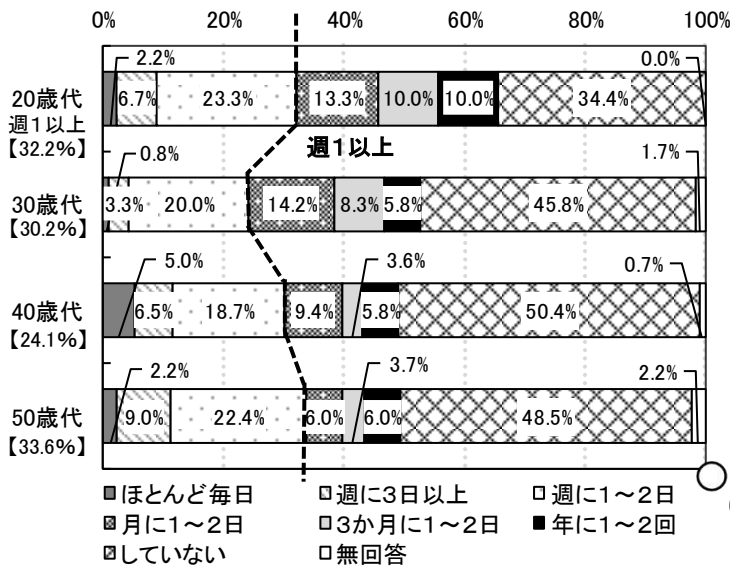
*² ユニバーサルデザイン：年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいように設計・デザインすること。

■現在運動やスポーツをしているか(全体)

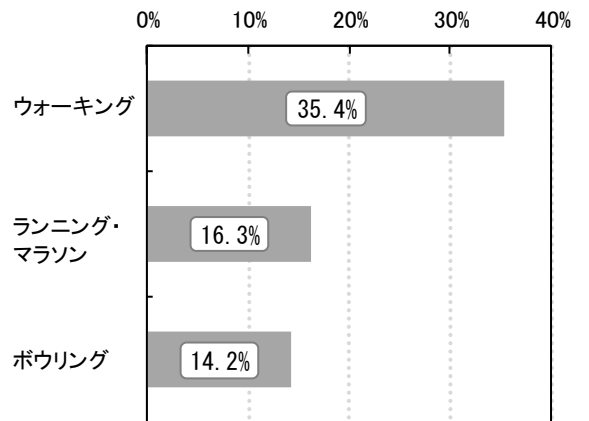


週1日以上 運動・スポーツ実施率
 男性:40.1%
 女性:32.7%

■現在運動やスポーツをしているか(若者・働く世代 年代別)

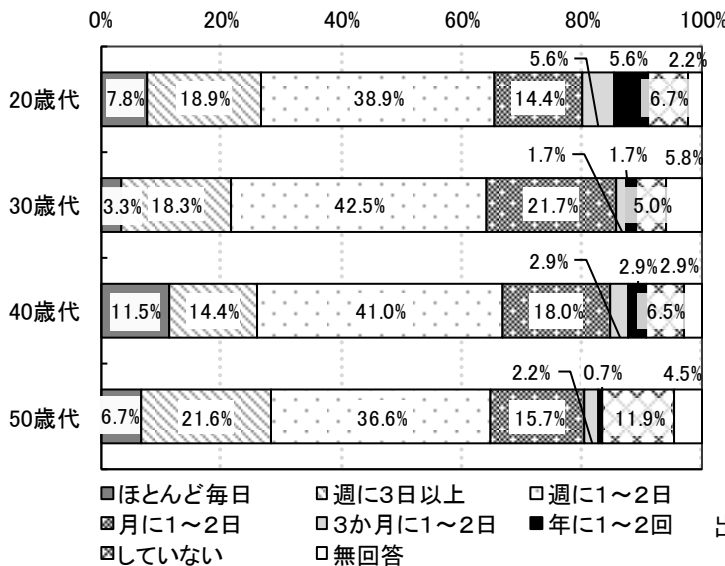


■現在行っているスポーツ(トップ3)(若者・働く世代)

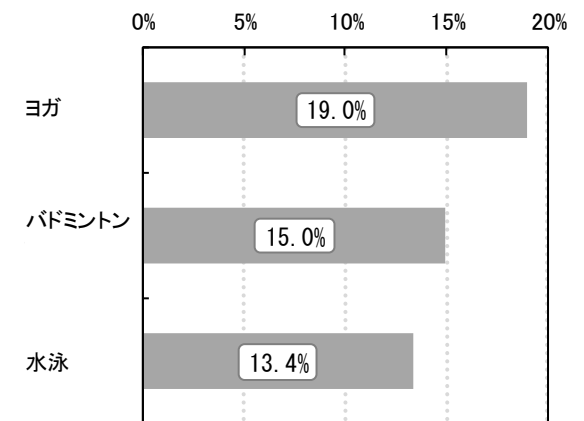


スポーツをしない理由としては
 1位 仕事や学業が忙しい
 2位 機会がない
 3位 運動が好きではない
 等があげられています。

■今後どれくらいスポーツがしたいか(若者・働く世代 年代別)



■今後やりたいスポーツ(トップ3)(若者・働く世代)



出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

基本方向① 若者・働く世代に対する運動・スポーツの推進

運動を行っていなかった若者や、仕事や子育てなどで運動・スポーツを実施する機会から遠ざかっている働く世代・子育て世代をターゲットにしたスポーツ教室やイベントを開催し、機会の拡充を図ります。

主な取組

● 若者世代や働く世代・子育て世代を対象としたスポーツ教室 【スポーツ推進課】 **重点** **継続**

若者世代や働く世代・子育て世代が気軽に参加できるよう、開催時間や開催種目、開催手法等、ニーズに合ったスポーツ教室を実施し、スポーツ体験活動を行う機会の充実を図る。

【指標】若者世代や働く世代を対象にしたスポーツ教室の開催数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
5回	未実施	8回	12回

● スポーツに関する相談機会の提供 【スポーツ推進課】 **継続**

誰もが気軽にスポーツに親しめるよう、各種団体や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、それぞれのライフスタイルに適したスポーツへの関わり方など、スポーツ活動全般について相談できる場を提供していく。

● LINE*1を利用した情報発信【再掲】(P.52) 【スポーツ推進課】 **重点** **継続**

*1 LINE:ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の一つ。携帯電話やパソコンでインターネットを介した電話や、テキストチャット(文字で行う会話)などが使える機能を有するアプリケーション。

基本方向② 女性のスポーツ参加機会の推進

オンライン等を利用しながら、気軽に運動・スポーツを楽しめる講座・イベントや女性特有の年代別健康課題を予防する講座等を開催し、女性の運動・スポーツへの参加促進を図ります。

主な取組

● 女性が参加しやすい講座等の開催

【スポーツ推進課】

新規

各種団体等と連携し、ニーズに合わせた講座の開催に努める。また、子育て中の女性や外出困難な方でも、場所や時間に制限されず気軽に参加できるようなオンライン配信の講座開催を検討していく。

● ヘルスアップ教室【再掲】(P.44)

【健康増進課】

継続

基本方向③ イベント・スポーツ大会への参加促進

運動・スポーツを実施する機会から遠ざかっている若者世代・働く世代・子育て世代をターゲットにしたスポーツ教室やイベントを開催し、参加促進を図ります。

主な取組

● 若者世代や働く世代・子育て世代を対象とした各種イベントの開催

【スポーツ推進課】

重点

継続

各種団体・民間企業等と連携して「ファンラン&ファンウォークイベント*1」や「オフィスポ*2」、「大人の運動会*3」などの若者世代や働く世代・子育て世代が気軽に参加できるような多様なイベントを開催し、スポーツ体験活動への参加促進を図る。

【指標】成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
35.7%	—	48.0%	56.0%

*1 ファンラン・ファンウォーク:ファンランはタイムを競って走るのではなく、様々なコンセプトを楽しむことを目的としたランニングイベント。ファンウォークは歩くことを楽しく健康的なものに変えて、健康増進を図るスポーツ庁のプロジェクト。

*2 オフィスポ:国(文部科学省)の委託事業「若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業」の一環で、オフィスで簡単な運動や体操、スポーツをして気分転換をはかり、健康増進や仕事の効率向上につなげようとする取組。

*3 大人の運動会:スポーツを通して、異業種等の交流や男女の出会いの場を創出し、交流人口・定住人口の増加や地域活性化につなげることを目的とした成人のための運動会。

◆現状と課題

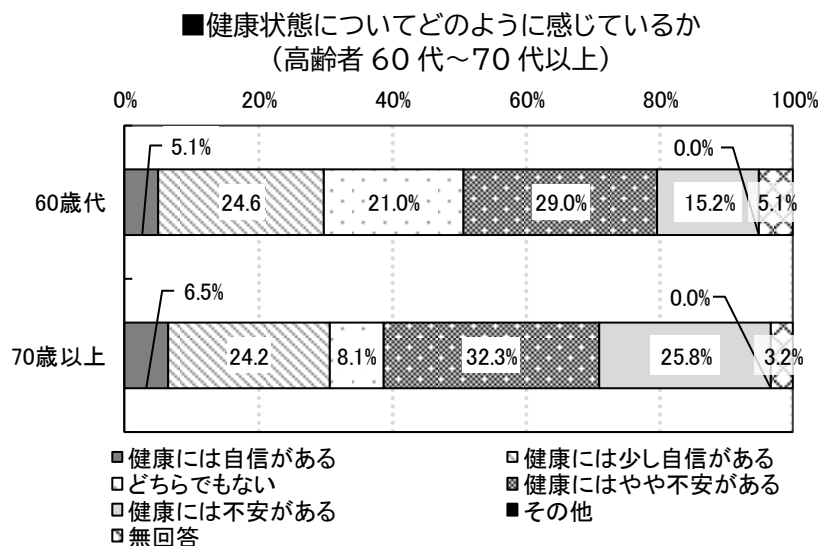
高齢化の進展に伴い、要介護・要支援の高齢者が増加しているなかで、本市でも自身の健康状態に不安がある高齢者は60代で44.2%、70代以上で58.1%の割合となっています。しかし、60代～70代以上の高齢者世代の運動・スポーツへの意欲・実施割合は他の世代よりも高い傾向にあり、「普段の生活のなかで気を付けていること」の間では「日常生活のなかで体を動かす」と回答した割合が5割を超えており、運動・スポーツへの関心の高さがうかがえます。

人生100年時代を迎える上で、高齢者の運動・スポーツ活動は、健康や体力増進、健康寿命の延伸、介護予防、生きがいづくり等の様々な面において、大きな役割を果たすことから、これからも積極的に取り組み機会の提供をしていく必要があります。

団体ヒアリング（平成28年度実施）によると、高齢者スポーツ教室（ヨガやバレエなど）に自ら車で通い、積極的に参加している高齢者の方がいる一方で、交通手段が限定されている、長距離の移動が困難な状況にある交通弱者の方もいます。また、地域によっては健康づくりの場が不足している状態にあるため、高齢者が進んで運動・スポーツを行えるような環境の充実を図っていく必要があります。

◆施策の方針

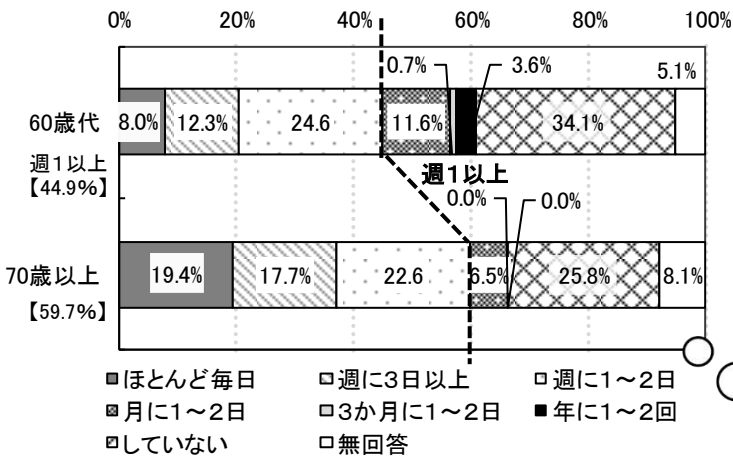
○高齢者の活動機会の増加や健康・体力の保持につながるよう、各種スポーツ活動等への支援をするとともに、各種健診の受診者等に適切な保健指導を行い、生活習慣病*1の発症・重症化等の予防に努めます。



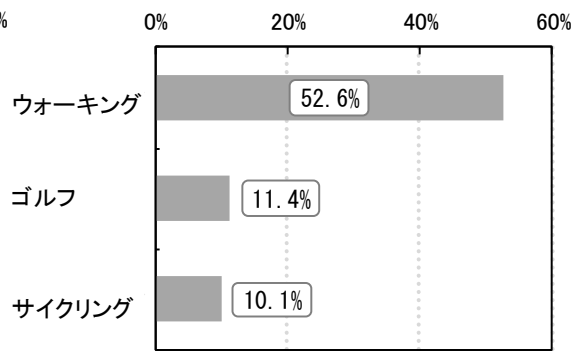
出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

*1 生活習慣病:食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなど日々の生活習慣が深く関与し、発症の原因となる疾患の総称。

■現在どれぐらいスポーツをしているか
(高齢者世代・60代～70代以上)

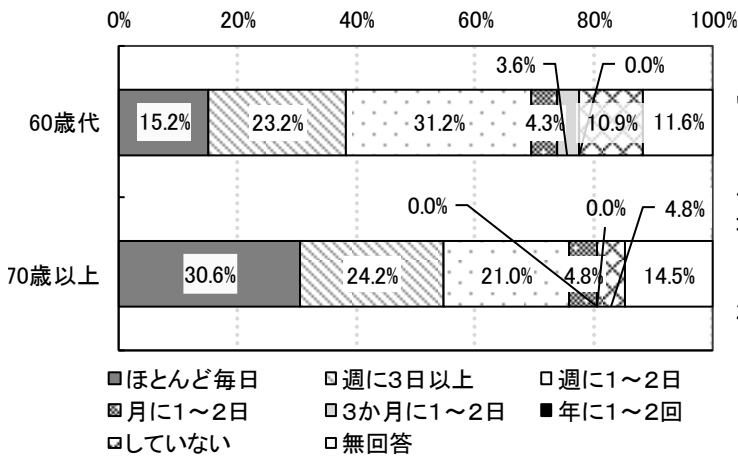


■現在行っているスポーツ(トップ3)
(高齢者60代～70代以上)

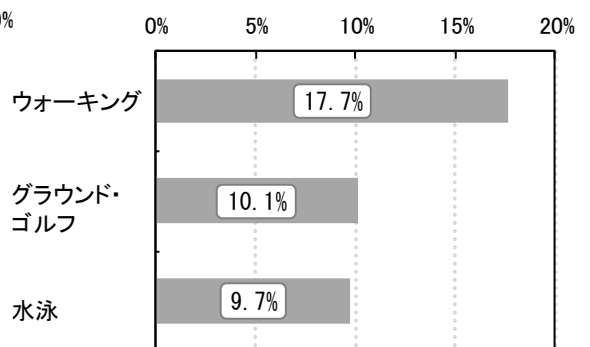


スポーツをしない理由としては
 1位 年をとった
 2位 運動が好きではない
 3位 機会がない
 等があげられています。

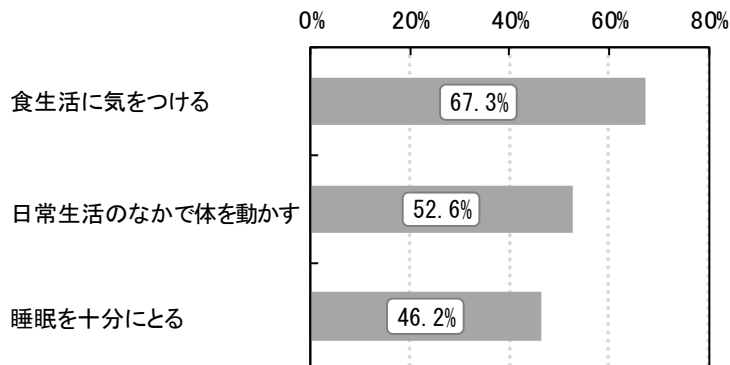
■今後どれぐらいスポーツがしたいか
(高齢者60代～70代以上)



■今後やりたいスポーツ(トップ3)
(高齢者60代～70代以上)



■日常の生活のなかで気を付けていること(トップ3)
(高齢者60代～70代以上)



出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(児童生徒)

基本方向① 高齢者の健康づくりの推進（保健・介護との連携）

各種健康教室を開催するなど、高齢者の健康活動を支援し、健康づくりを推進します。

主な取組

● 高齢期対象事業

【生涯学習課】

重点

継続

実生活に即した教養の向上を図り、趣味活動や社会参加によって生涯にわたり健康で生きがいを持って生活できることを目指し、グラウンド・ゴルフ*¹やシルバーリハビリ体操*²などの教室や講演会等を実施する。

【指標】健康づくりを目的とした教室の参加者数(延べ)

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
482 人	中止	500 人	600 人

● 健康増進事業(老人クラブ)への支援

【介護福祉課】

継続

各老人クラブが健康増進事業として行うスポーツ活動への支援を行う。

【指標】スポーツ活動等の実施回数(合計)

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
356 回	227 回	380 回	400 回

● ヘルスアップ教室

【健康増進課】

継続

教室参加者が、自身に必要な運動や食生活を理解することによって、健康づくりへの意欲を高め、継続的な健康行動（運動や食生活、休養など）を促すよう、運動面及び栄養面からの支援を行う。

【指標】健康づくりを目的とした運動教室の開催数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
26 回/年	18 回/年	26 回/年	26 回/年

*¹ グラウンド・ゴルフ: 簡単で、誰でも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として日本で考案されたニュースポーツ。ゴルフを基本としており、必要とするプレ時間は、標準的なコースで8ホール 30 分程度。

*² シルバーリハビリ体操: 茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生が開発した体操。関節機能の維持向上や筋肉のストレッチが中心で生活上の動作訓練となる「いきいきヘルス体操」と「いきいきヘルスいっぽう体操」で構成される。

● 病態別教室

【健康増進課】

継続

生活習慣病の予防を目的とした高血糖予防教室、高血圧・脂質異常症をターゲットとした血液サラサラ教室を開催し、発症及び重症化・再発予防を図る。

【指標】生活習慣病予防を目的とした教室の開催数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
25回/年	6回/年	6回/年	9回/年

基本方向② イベント・スポーツ大会への参加促進

高齢者の健康づくりを推進するため、各種スポーツ大会やイベントへの参加促進を図ります。

主な取組

● 健康づくり事業(老人クラブ連合会)への支援

【介護福祉課】

継続

老人クラブ連合会が健康づくり事業として行う各種スポーツ活動への支援を行う。

【指標】各種スポーツ活動の参加者数(延べ)

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
1,479人	1,171人	1,600人	1,700人



▲高齢者 グラウンド・ゴルフ

◆現状と課題

令和3年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査（スポーツ庁）」によると、過去1年に運動・スポーツを実施した割合が60.8%となっています。過去の実施率と比べて大きく増加しており、障がい者の運動・スポーツに対する関心が高まっていることがうかがえます。

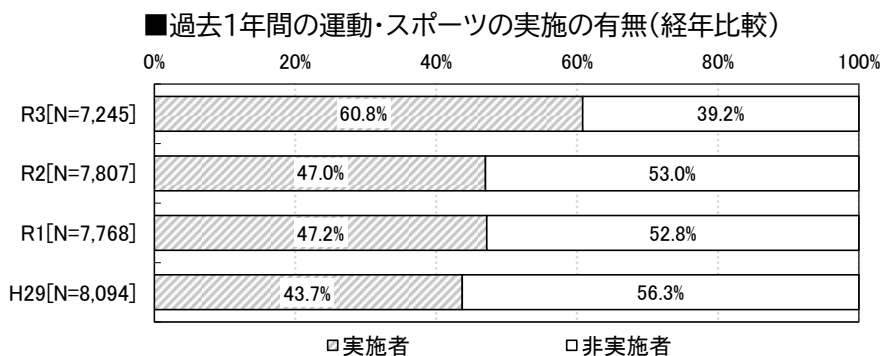
令和3年度に実施したアンケートの充実度・重要性調査でも「障がい者スポーツ環境の充実」「障がい者スポーツの普及促進」は特に改善が必要な項目となっており、本市においても障がい者の運動・スポーツに対する関心の高さがうかがえます。一方で、障がい者スポーツの体験ができる場は限られており、市民の認知度・理解度にはまだ課題があります。また、障がい者が気軽に利用できる生涯スポーツのプログラムが少ないことも課題となっています。

そのため、障がい者スポーツに対する市民の理解・啓発を深めていくとともに、誰もがスポーツを楽しみ、参加できる環境を整備・充実していくことが大切です。

さらに、令和3年に開催した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、障がい者スポーツへの意識の醸成を図るとともに、障がい者スポーツへの理解促進を図るための啓発事業や、誰もが参加・交流できるスポーツイベント等、交流機会の拡大が求められます。

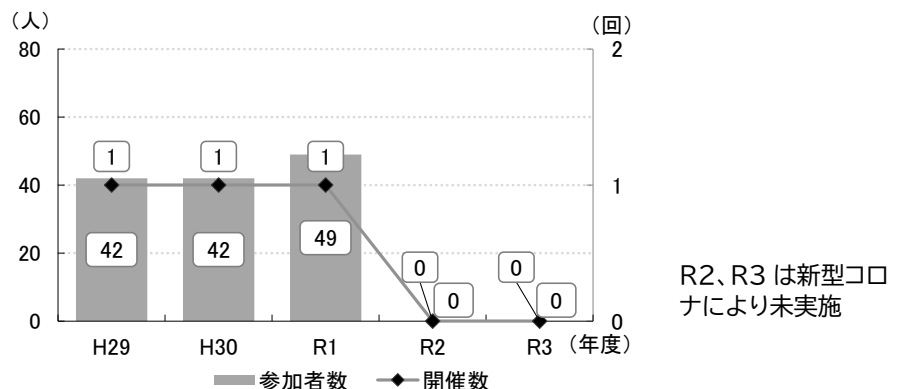
◆施策の方針

○障がい者スポーツに対する理解・啓発を深めていくとともに、誰もがスポーツに親しみ、楽しめるよう、環境の整備・充実を図ります。



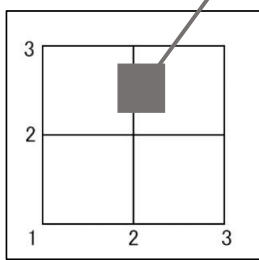
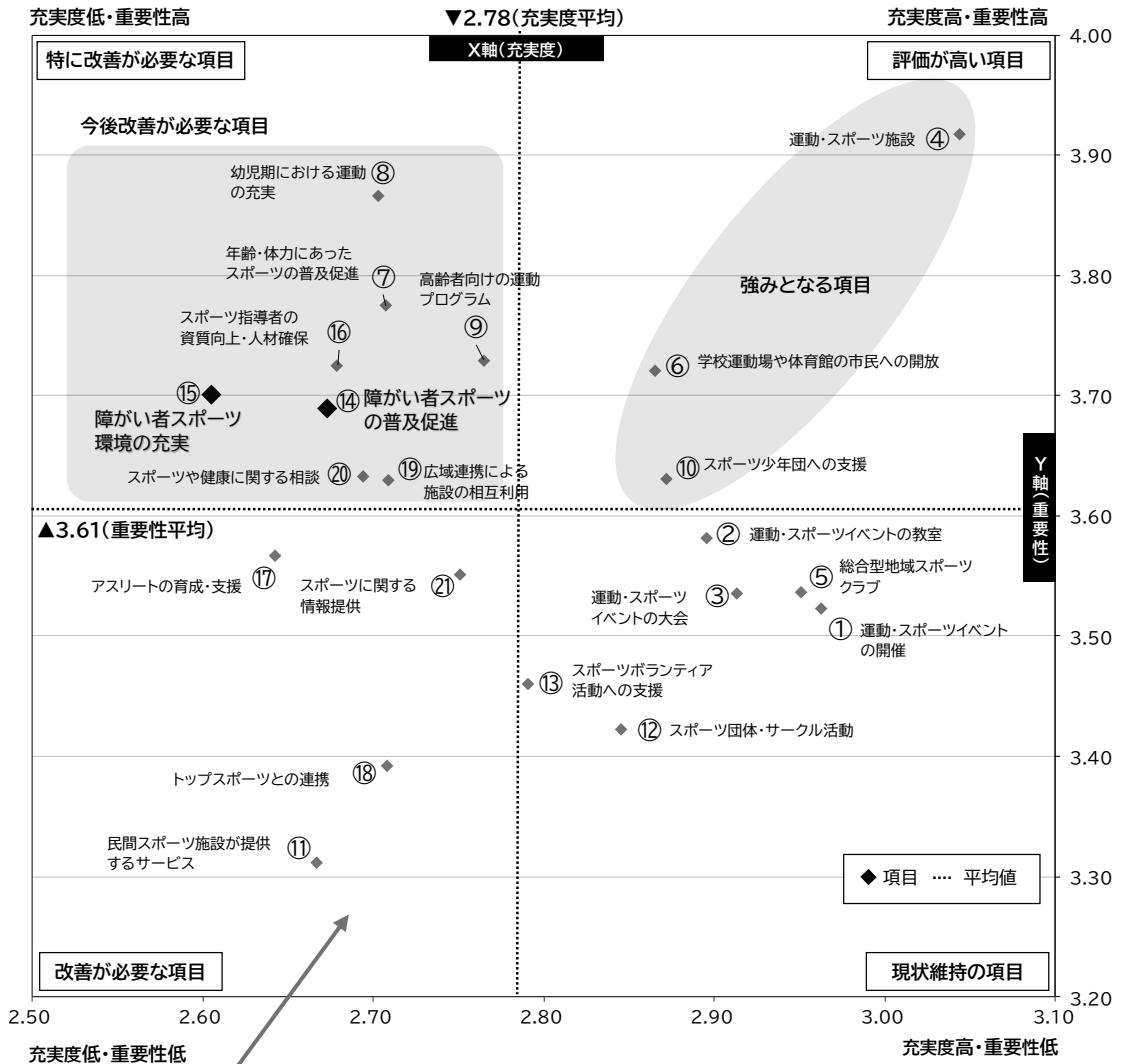
出典:令和3年度スポーツ庁「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害児・者のスポーツライフに関する調査研究)報告書」

■障がい者スポーツ・レクリエーション教室の開催数と参加者数



資料:社会福祉課・スポーツ推進課

■小美玉市のスポーツ振興全般における充実度・重要性について(CS分析概要)
(詳細版は資料集 P.99 へ)



上記グラフの範囲

CS分析とは…アンケート充実度、必要性の回答を点数化、充実度を横軸、必要性を縦軸として、問を分布することで、改善する項目と優先順位を明らかにしたものの。

出典:令和3年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果



▲障がい者スポーツ・レクリエーション教室

基本方向① 障がい者のスポーツ参加機会の推進

障がいがある人もない人もレクリエーション感覚で気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション教室などを開催し、障がい者がスポーツに触れる機会の充実と社会参加の促進を目指します。

主な取組

● 障がい者スポーツ・レクリエーション教室(地域生活支援事業) 【社会福祉課 スポーツ推進課】 継続

障がいがある人もない人も、誰もがスポーツに親しむ機会として「スポーツ・レクリエーション教室」を開催し、スポーツ・レクリエーション活動を通じた体力向上、交流、余暇活動など、障がい者の社会参加の促進を図る。

【指標】障がい者スポーツ・レクリエーション教室の開催数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
2回	0回	3回	4回

● 移動支援事業(地域生活支援事業) 【社会福祉課】 継続

屋外において単独での移動が困難な障がい者が、スポーツや余暇活動等に参加するために、外出時の移動を支援する福祉サービスを提供し、障がい者のスポーツ参加機会の充実を図る。

【指標】障がい者スポーツ・レクリエーション教室の参加者数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
75人	0人	100人	150人



▲障がい者スポーツ・レクリエーション教室

基本方向② 障がい者スポーツに対する理解・啓発

各種研修やイベント等を通じて、障がい者スポーツに対する理解と認識を深めるため、啓発に努めます。

主な取組

● 理解促進研修・啓発事業(地域生活支援事業)

【社会福祉課】

継続

障がい者スポーツに対する理解・啓発に資するよう、障がいや障がい者に関して正しい理解と認識を深めるための研修・啓発事業の実施をはじめ、ノーマライゼーション*1の理念に基づく啓発や差別の解消に向けた取組を推進する。

● 障がい者スポーツ体験イベント

【スポーツ推進課】

重点

継続

誰もが気軽に参加できるような障がい者スポーツの楽しさや魅力の発信を目的としたスポレクデー等の体験イベントを開催し、相互理解を深める。

【指標】小美玉スポレクデーの参加者数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
4,378 人	中止	5,900 人	7,500 人

● 競技スポーツ支援事業【再掲】(P.61)

【スポーツ推進課】

継続

● スポーツ推進委員活動【再掲】(P.57)

【スポーツ推進課】

継続

*1 ノーマライゼーション:障がいの有無に関係なく、誰もが同じように生活や人権が保障されるような環境整備を目指す理念。

◆現状と課題

豊富な情報を提供することはスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツに気軽に親しむきっかけづくりとなります。

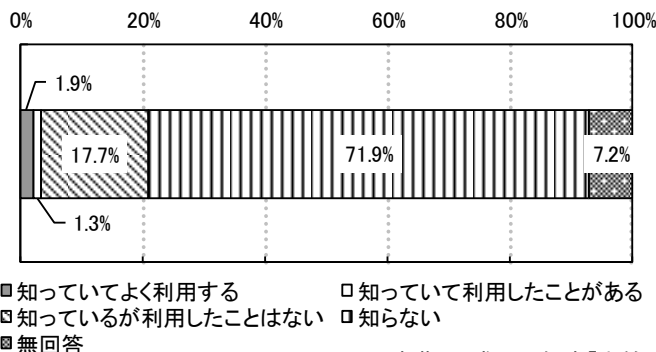
現在、本市のイベントや教室などの情報は多様な媒体で発信されていますが、市民へ情報が十分に行き届いていない状況にあります。本市独自の取組である情報媒体のLINEを活用したニュース配信や、市ホームページで配信している「おみたまスポーツニュース」等も市民の認知度が低く、(LINEを「知らない」が71.9%、スポーツニュースを「知らない」が60.4%「平成28年度アンケート調査より」)十分に活用されていないという課題があります。

そのため、適切な情報が市民に広く届くよう、多様な情報発信に努めるとともに、Society5.0社会*1やICT等の時代のニーズに対応しながら幅広くスポーツ情報を提供できるような仕組みづくりを検討し、周知手法やPR・啓発の強化を図っていきます。

◆施策の方針

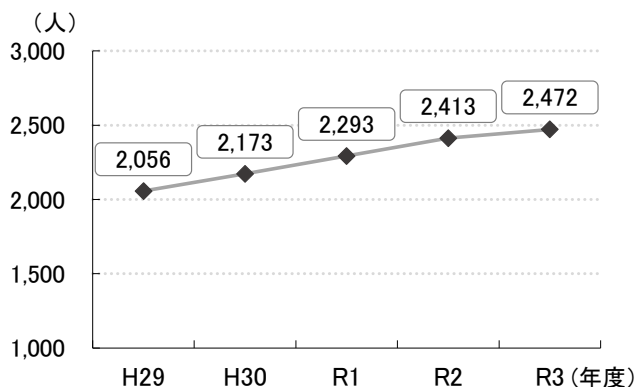
○市民が生涯にわたり、運動やスポーツ活動に気軽に取り組むことができるよう、イベント・教室等の情報を適切な媒体で積極的に発信していきます。

■LINEアカウントを活用した情報配信について
(小美玉市スポーツ推進課アカウントで配信)



出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

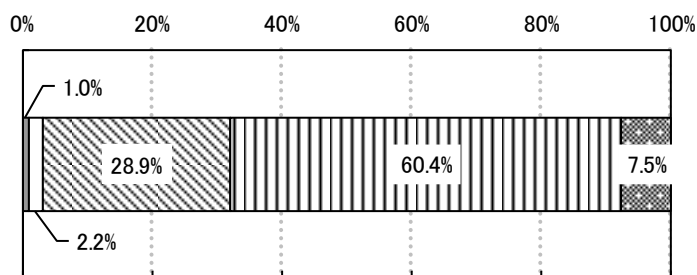
■LINEアカウントのお友達登録者数の推移



資料:スポーツ推進課

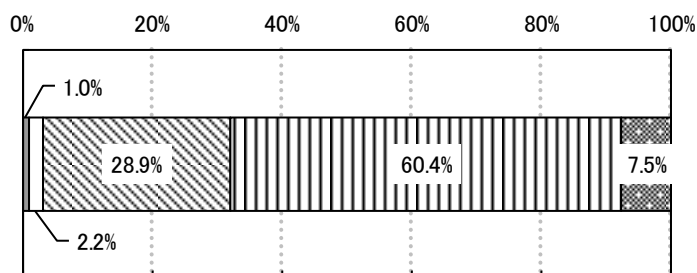
*1 Society5.0 社会:狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会のこと。

■おみたまスポーツニュース(市ホームページ内)について



- 知っているが利用したことはない
- ▨ 知っているが利用したことはない
- ▩ 知っているが利用したことはない
- ▧ 知っているが利用したことはない
- 知らない

■小美玉スポーツ新聞など総合型地域スポーツクラブの活動について



- 知っているが利用したことはない
- ▨ 知っているが利用したことはない
- ▩ 知っているが利用したことはない
- ▧ 知っているが利用したことはない
- 知らない

出典:平成 28 年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

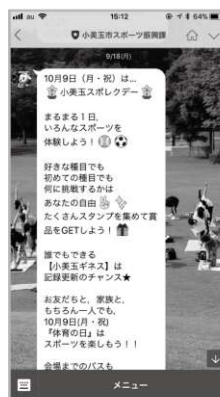
小美玉市スポーツ推進課ではスマートフォン向けアプリ LINE を利用して小美玉市のスポーツ情報を配信しています。



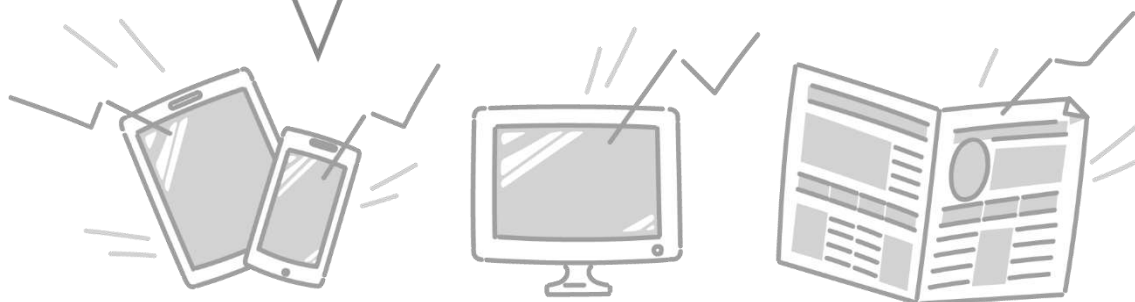
LINE ID: @omitamacitysports
アカウント名: 小美玉市スポーツ推進課

(お友達登録方法)

- 方法1 スマートフォンなどで左のQRコードを読み込み、「友だちを追加」して下さい。
- 方法2 LINEアプリ内の「ID検索」で上記IDを検索し、「友だち登録」をして下さい。



配信画面(※H29 時点)



基本方向① ICTの活用とイベント・教室等の情報提供の拡充

スポーツイベントやスポーツ教室等の情報が広く市民に届くよう、広報誌やホームページを始めとした様々な媒体を活用して情報発信します。また、オンライン配信等を活用した講座やイベントの取組の推進と情報提供に努めます。

主な取組

● オンライン講座・イベントの活用・情報発信

【スポーツ推進課】

新規

場所や時間などを気にせず誰でも健康づくりやスポーツに親しめるよう、オンライン配信等を活用した講座やイベントを推進するとともに、国や県、各団体などで実施しているオンライン講座について情報提供を行う。

● LINEを利用した情報発信

【スポーツ推進課】

重点

継続

積極的に情報を求めている市民に対してLINEによるイベント・教室等の情報発信を行うとともに、LINEの利用者数（お友達登録者数）を増やす。

【指標】お友達登録者数(累計)

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
1,832人	2,472人	3,000人	4,000人

● 小美玉スポーツ新聞を利用した情報発信

【スポーツ推進課】

継続

小美玉スポーツ新聞を活用し、総合型地域スポーツクラブの活動情報やイベント・教室のお知らせ等、市内のスポーツ活動に係る情報を市民に発信する。

【指標】小美玉スポーツ新聞の年間発行回数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
4回/年	4回/年	4回/年	4回/年

● 新規媒体を用いた情報発信

【スポーツ推進課】

継続

日々変化する情報化社会のなかで、適切な媒体を活用して情報発信を行う。

基本方向② 活動促進のためのPRの工夫

LINEを利用した情報発信について、広く市民に浸透するよう、関係機関と連携し、様々な手段を講じて効果的なPRを行います。

主な取組

● 転入者へLINE勧誘チラシの配布

【スポーツ推進課】

重点

継続

転入の手続きをした市民に対して、スポーツ情報発信案内のチラシを配布する。



▲情報提供（LINE）の案内

3. スポーツ環境の充実

目指すべき主なゴール



小美玉市のスポーツ環境の充実を目指し、スポーツ団体活動の支援・充実を図るとともに、スポーツ団体等指導者の発掘・育成、ボランティアの発掘・育成を目指した取組を強化します。

また、小美玉市のスポーツ活動の拠点となる総合型地域スポーツクラブの充実に取り組むとともに小美玉市特有の取組である競技スポーツ・トップアスリートの支援や、市内の優秀選手等の顕彰を行います。

さらに、小美玉市の地域性を生かした新たな地域スポーツの充実を目指すとともに市内のスポーツ資源を活用し、実施可能なスポーツ大会・イベント、合宿等の誘致や、トップアスリートとふれあう機会を充実させるなど、多種多様なスポーツ交流を図ります。

基本施策

1 スポーツ活動を支援する体制の整備

◆現状と課題

市民がスポーツ活動への意欲をより高め、安全・安心に健康・体力づくりを行うためには、適切な指導が必要であり、スポーツ活動に関わる団体等の支援や人材の育成が重要となります。

本市のスポーツ団体への登録者数は社会情勢等の変化により減少傾向にありますが、団体の活動の活性化を図るためには現状を維持継続していくことが大切です。

また、団体ヒアリング（令和3年度）によると、コロナ禍においては、各団体間での情報共有が難しかったことが課題としてあがっています。

そのため、スポーツ協会やスポーツ少年団など各団体の活動支援の更なる充実と、団体間の連携や情報提供の支援をしていく必要があります。さらに、各団体を支えるスタッフ、指導者等の育成支援を図るとともに、スポーツ大会やイベント運営等へ協力いただく市民ボランティアの充実や人材の養成に努め、スポーツファミリー*1（スポーツをする人・観る人・支える人）の維持・拡大につなげていくことが大切です。

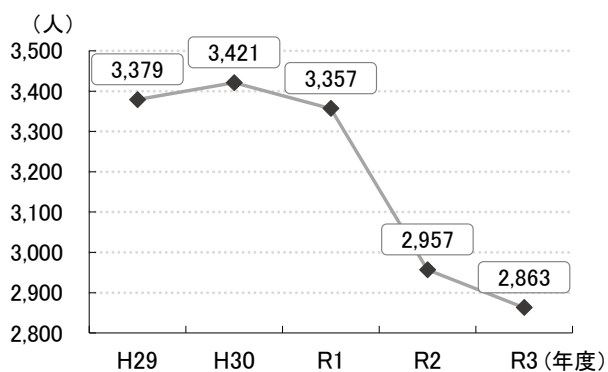
本市の総合型地域スポーツクラブについては、市民の認知度が低い（「知らない」が60.4%「平成28年度アンケート調査より」）という現状があります。引き続き、地域と連携して、総合型地域スポーツクラブの支援及び利用促進を図り、認知度を高め、地域のスポーツ振興を推進していく必要があります。

◆施策の方針

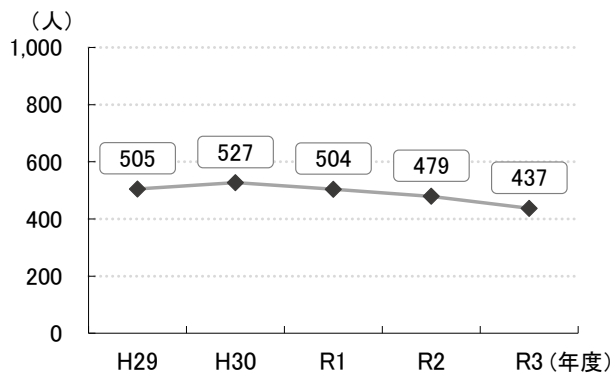
○市民が日常的・継続的に運動・スポーツが行えるよう、スポーツ環境の充実を目指し、スポーツ団体の支援・充実を図ります。

*1 スポーツファミリー：スポーツをする人・観る人・支える人など、スポーツに関わるすべての人が連携・協働する姿。

■スポーツ協会加盟団体会員数

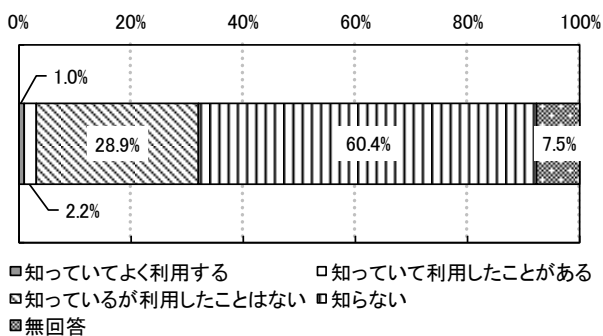


■スポーツ少年団団員数



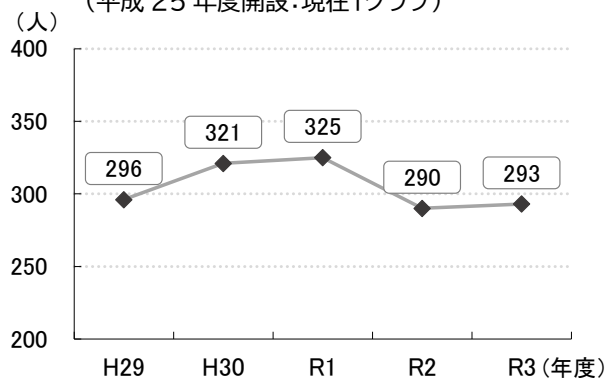
資料:スポーツ推進課

■本市の総合型地域スポーツクラブ (各種活動を含む)について



出典:平成 28 年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

■総合型地域スポーツクラブ会員数 (平成 25 年度開設:現在1クラブ)



資料:スポーツ推進課



▲総合型地域スポーツクラブ



▲指導者研修の様子

基本方向① スポーツ団体の育成・支援

スポーツ団体の維持継続を促進していくため、スポーツ協会やスポーツ少年団を支援します。

主な取組

● スポーツ協会支援

【スポーツ推進課】 **重点** **継続**

各団体の活動概要や主催する大会・教室等について、広報や市のホームページなど各種情報媒体を活用して積極的にPRをしていく。また、スポーツ関係団体間で情報共有できる仕組みをつくるなど連携促進に努める。

【指標】スポーツ協会加盟団体会員数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
3,150人	2,863人	維持継続	維持継続

● スポーツ少年団支援

【スポーツ推進課】 **重点** **継続**

各団体の活動概要や主催する大会・教室等について、広報や市のホームページなど各種情報媒体を活用して積極的にPRをしていく。また、スポーツ関係団体間で情報共有できる仕組みをつくるなど連携促進に努める。

【指標】スポーツ少年団団員数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
485人	437人	維持継続	維持継続

基本方向② スポーツ団体等指導者の育成・確保

地域で活動するスポーツ団体を支援するため、専門的知識を有する指導者の育成・確保を目指した取組を強化します。

主な取組

● スポーツ推進委員活動

【スポーツ推進課】

継続

地域で活動するスポーツ団体を支援するため、スポーツ推進事業を実施する際の連絡調整や実技指導を行い、市民のスポーツ活動の促進を図る。また、研修会等への積極的な参加を推進し、スポーツ推進委員*1の資質向上を目指していく。

【指標】スポーツ推進委員研修会の活動回数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 9 年度
2回	2回	3回	4回

● スポーツ団体等指導者の育成

【スポーツ推進課】

継続

各種団体や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、スポーツ指導者を対象に、誰もが安全にスポーツを楽しむための予防対策等に関する知識の普及啓発や、最新のスポーツ医・科学研究等について学習する研修の充実を図り、高い資質を持った指導者を育成する。



*1 スポーツ推進委員:「スポーツ基本法」第 32 条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する委員。任期は2年。スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う。

基本方向③ スポーツを支えるボランティアの養成

スポーツ大会やスポーツイベントの運営に参画するスポーツボランティアを養成し、市民のスポーツ活動の充実を図ります。

主な取組

● スポーツボランティア活動

【スポーツ推進課】

継続

市民のスポーツを“ささえる”スポーツボランティアを養成し、より広く市民のスポーツ活動の充実を図る。

【指標】スポーツボランティア活動数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
—	—	50人	50人

● スポーツボランティアバンクの運用

【スポーツ推進課】

継続

本市内における様々なスポーツ関連の活動を支援し、市民の生涯スポーツの振興に寄与するべく、「(仮)小美玉スポーツボランティアバンク」の開設を目指します。

基本方向④ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

総合型地域スポーツクラブを様々な角度から支援し、地域におけるスポーツの活性化や地域と連携したスポーツ環境の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブの利用促進を図ります。

主な取組

● 総合型地域スポーツクラブの利用促進

【スポーツ推進課】

重点

継続

総合型地域スポーツクラブの利用促進を図り、認知度を上げ会員数を増やす。

【指標】市内における総合型地域スポーツクラブ会員数の割合

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
0.62%	0.59%	1.0%	1.5%
(市人口:50,911人)	(市人口:39,039人)	(市人口:49,455人)	(市人口:48,416人)

出典:R2国勢調査(総務省統計局)(※R4年度、R9年度は推計人口より算出)

● 小美玉市独自の総合型地域スポーツクラブの充実

【スポーツ推進課】

継続

誰もが身近な場所で安全に運動・スポーツができるよう、総合型地域スポーツクラブの充実を図るとともに、引き続き、市全域を対象とする中核的機能の充実に努める。

また、地域の実情に合った取組を促進するために、運営にあたっては地区コミュニティなどと連携していく。

【指標】総合型地域スポーツクラブ数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
1クラブ	1クラブ	2クラブ	2クラブ

◆現状と課題

本市にゆかりのあるアスリートが世界的・全国的に活躍することは、市民にとって誇りであり、夢と希望を与えるとともに、スポーツ活動への関心を高めることにつながります。

令和3年度アンケート（児童生徒・市民）によると、東京2020オリンピック・パラリンピック開催後、スポーツに対する意識が高まった児童生徒は33.9%、市民は23.8%となっています。

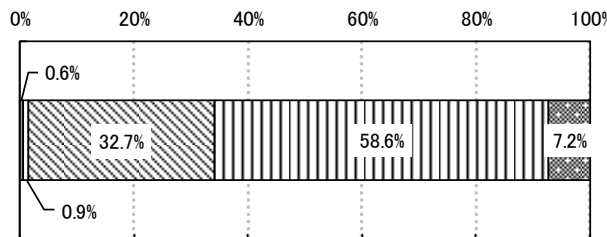
市民のスポーツ意識のさらなる向上を目指すため、競技スポーツ等の振興を図るとともに、各競技団体や地域におけるスポーツ関係団体等と連携・協働し、競技スポーツやトップアスリートの活動の支援をしていく必要があります。さらに、オリンピック・パラリンピック競技大会や世界大会など多様な場で活躍できるような、優れた素質・意欲を有するトップアスリートを発掘・支援していくことが重要となります。

また、本市ならではの特色あるスポーツ活動の創出を図り、市民が多様なスポーツに触れる機会を提供していくことが大切です。

◆施策の方針

○市民のスポーツ意識のさらなる向上を目指し、本市の競技スポーツやアスリートの支援に努めるとともに、新たなスポーツの創出を図ります。

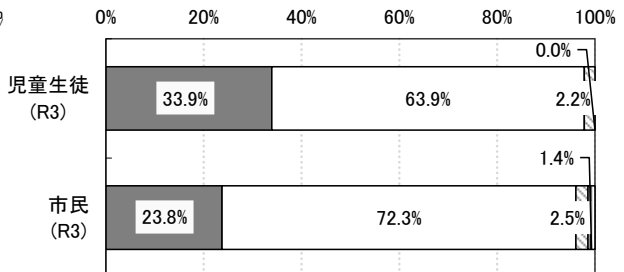
■小美玉フットボールアカデミー
(女子サッカー選手の育成)について



- 知っているが利用したことはない
- 知っているが利用したことがある
- 知らない
- 無回答
- 無効

出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

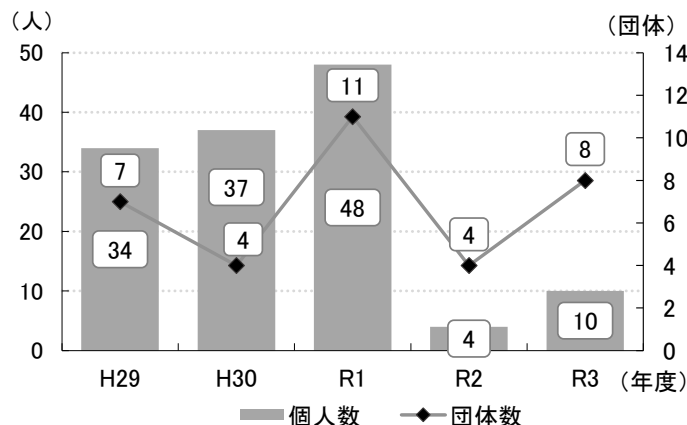
■東京2020オリンピック・パラリンピック
開催を受けてのスポーツ意識の変化



- 高まった
- 変わらない
- 低くなった
- 無回答・無効

出典:令和3年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

■スポーツ優秀選手・優秀団体表彰数の推移



資料:スポーツ推進課

基本方向① 競技スポーツの支援

全国及び世界を舞台にスポーツで活躍する市民の支援に努めるとともに、競技スポーツ及び地域におけるスポーツの振興のため、各種競技スポーツ等との連携を図ります。

主な取組

● 競技スポーツ支援事業

【スポーツ推進課】

継続

オリンピック・パラリンピック等の候補選手等、トップアスリートの活動支援及び優れた素質を有する未来のアスリートの支援に努める。

● 競技スポーツ連携事業

【スポーツ推進課】

継続

サッカー等を始めとする各種競技スポーツ等と連携し、競技スポーツ及び地域スポーツの振興を図る。

基本方向② スポーツ優秀選手等の顕彰

全国大会や関東大会等に出場したスポーツ優秀選手や団体を表彰することにより、スポーツの普及・奨励・競技力の向上を目指します。

主な取組

● スポーツ優秀選手・優秀団体表彰

【スポーツ推進課】

重点

継続

学校や各種スポーツ団体等と連携し、対象者の把握をするとともに、全国大会や関東大会等に出場したスポーツ優秀選手に対して表彰・奨励を行う。

【指標】スポーツ優秀選手・団体表彰数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
団体:9団体 個人: 26人	団体:8団体 個人: 10人	団体:12団体 個人: 30人	団体:15団体 個人: 40人

基本方向③ 新たなスポーツ活動機会の創出

地域活動などと連携した、地域に根ざしたスポーツ活動やデジタル技術を活用したスポーツ活動など、特色ある新たなスポーツ活動の機会を創出します。

主な取組

● 地域特性を生かしたスポーツ活動

【スポーツ推進課】 **継続**

県・他自治体と連携した霞ヶ浦湖岸のナショナルサイクルルートを活用したサイクリングや地域の自然を楽しむウォーキングなど、地域特性を生かしたスポーツ活動を推進する。

【指標】地域特性を生かしたスポーツ活動の開催数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
—	—	1回	2回

● デジタル技術を活用したスポーツ活動

【スポーツ推進課 生涯学習課】 **重点** **新規**

DX（デジタルトランスフォーメーション）*1の普及に伴い、新たなデジタル技術やデータを活用したスポーツ活動を推進する。



▲表彰の様子

*1 DX:ICT(情報通信技術)の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

基本施策 3 多様なスポーツ交流の推進

◆現状と課題

プロスポーツチームやトップアスリートとの交流は、一流の技術や指導に触れることができる好機であり、スポーツ活動への意欲や技術の向上につながります。本市でも、「トップアスリートスポーツ教室」等の交流機会の提供を図っています。

また、市民同士が気軽に運動・スポーツを楽しめる交流の場も大切です。平成28年度のアンケートによると、市主催のスポーツ大会の認知度の割合は約7割となっており、関心の高さがうかがえます。一方で、新型コロナ感染拡大等の影響により、教室やイベント等の中止が続いており市民に十分な機会の提供ができていない状況です。今後はウィズコロナを見据え、開催手法等、見直しを図りながら、継続して交流機会を提供していくことが大切です。

さらに、プロスポーツ等やスポーツ大会を観戦する機会を得ることは、スポーツへの興味・関心を高めます。現状、本市ではレベルの高いスポーツ大会・イベント、スポーツ合宿等は行われていないことから、形式や手法等を検討しながら、大会等の誘致に努め、スポーツに親しむきっかけづくりやスポーツによるまちづくりを進めていくことが大切です。

各スポーツ団体等と連携し、スポーツを通じた交流を促進し、生涯にわたってスポーツを楽しむ環境の充実を図っていく必要があります。

◆施策の方針

○スポーツを通じたまちづくりを目指して、市内のスポーツ資源を活用した、スポーツ大会、イベント、スポーツ合宿などの誘致を検討し、多様な手法によるスポーツ交流を推進します。

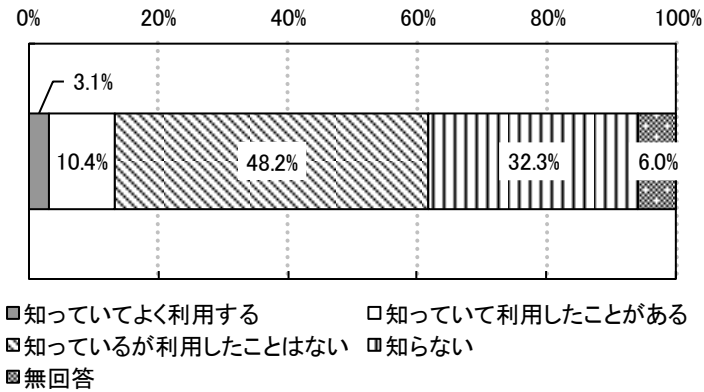
■トップアスリートスポーツ教室の実施概要

平成24年度	計1回	①ジュニア走り方教室<参加者数 約60人> (講師:筑波大学大学院准教授 谷川聡さん [※]) ※元陸上競技選手(世界選手権、シドニー・アテネ五輪出場 110mハードル日本記録保持者)
平成27年度	計1回	①小美玉ベースボールアカデミー2015<参加者数 約90人> (講師:JAA 江尻亮さん ^{※1} 、遠藤一彦さん ^{※2}) ※1 元プロ野球選手(大洋ホエールズで投手・外野手を務め、横浜大洋ホエールズ、千葉ロッテマリーンズで監督を歴任) ※2 元プロ野球選手(横浜大洋ホエールズで投手を務め、横浜ベイスターズの投手コーチを歴任)
平成28年度 *平成28年度より名称変更	計4回	①鹿島アントラーズサッカースクール<参加者数 約170人> (講師:鈴木優磨さん [※] 、杉本太郎さん [※] 、平戸大貴さん [※]) ※鹿島アントラーズ(当時所属)現役プロサッカー選手 ②小美玉ベースボールアカデミー2016<参加者数 約70人> (講師:江尻亮さん、遠藤一彦さん) ③バドミントン教室<参加者数 約80人> (講師:池田信太郎さん [※]) ※元バドミントン選手(世界選手権、全英オープン、北京・ロンドン五輪出場) ④バレーボール教室<参加者数 約120人> (講師:山本隆弘さん [※]) ※元プロバレーボール選手(元パナソニック・パンサーズ所属。世界選手権、W杯、北京五輪出場)
平成30年度	計2回	①バレーボール教室<参加者数 45人> (講師:山本隆弘さん) ②小美玉ベースボールアカデミー<参加者数 約65人> (講師:江尻亮さん、遠藤一彦さん)

(平成25、26、29年度、令和元年度は未実施。令和2、3年度は新型コロナで未実施。)

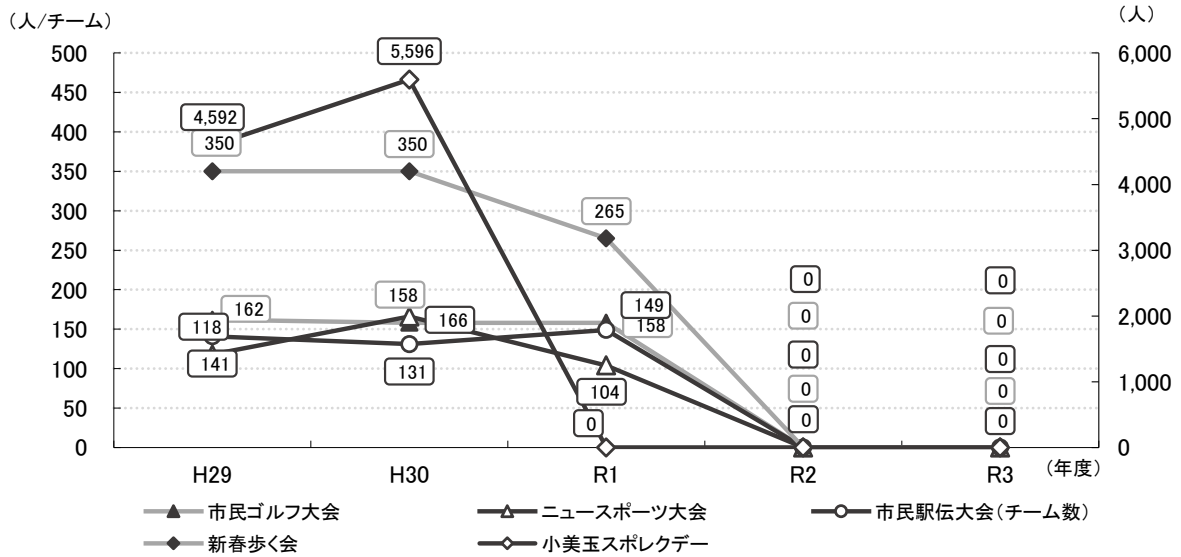
資料:スポーツ推進課

■市主催のスポーツ大会(スポレクデー、市民駅伝大会など)について



出典:平成 28 年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

■市主催のスポーツ大会の参加者数推移



※市民駅伝大会は単位:チーム
 ※小美玉スポレクデーR1は台風により中止
 ※R2、R3は新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止

資料:スポーツ推進課



▲新春歩く会

基本方向① トップアスリートに触れる機会の充実

トップアスリートから直接指導を受けることにより、子どもたちの運動・スポーツに対する活動意欲を高め、主体的に運動・スポーツに親しむ習慣を身につけさせることを目指します。

● トップアスリートスポーツ教室

【スポーツ推進課】

重点

継続

競技力向上や活動意欲の向上を目的とし、トップアスリートを招聘したスポーツ教室等を開催する。

【指標】トップアスリートスポーツ教室の開催数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
4回	0回	5回	5回



▲トップアスリートスポーツ教室（サッカー）



▲トップアスリートスポーツ教室（ベースボール）

基本方向② スポーツ大会・イベントの推進

生涯にわたってスポーツを楽しむ環境を充実させるため、「するスポーツ」・「観るスポーツ」の機会を市民に提供します。

主な取組

● スポーツ・レクリエーション・イベント等の開催

【スポーツ推進課】

重点

継続

「小美玉スポレクデー」や「歩く会」、「ニュースポーツ大会」等イベントの実施手法を工夫しながら、“するスポーツ”の機会提供を図るとともに、多様なスポーツ・レクリエーション・イベントを検討し、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を充実させる。

【指標】小美玉スポレクデーの参加者数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
4,378 人	中止	5,900 人	7,500 人

● スポーツ大会等の誘致

【スポーツ推進課】

継続

限られた資源のなかで、市民が大会等を観戦しやすい環境づくりや手法について検討するとともに、各種団体等と連携しながらレベルの高いスポーツ大会等を誘致するなど、“観るスポーツ”を市民に提供することにより、生涯にわたってスポーツを楽しむ環境を充実させる。

【指標】スポーツ大会等誘致数

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
—	—	1回	2回



▲小美玉スポレクデー（ズンバ）



▲小美玉スポレクデー（小美玉ギネス）

基本方向③ スポーツツーリズム等の推進

本市をフィールドにスポーツをする人、あるいは本市のスポーツイベントに参加する人が同時に観光を楽しむことができるよう、スポーツと地域観光を融合した多種多様な交流を促進します。

主な取組

● スポーツツーリズム*¹の推進

【スポーツ推進課】

重点

継続

スポーツと観光の連携を図り、ナショナルサイクルルートや地域資源を活用したスポーツイベントやスポーツ大会の誘致・開催を目指すとともに、各種スポーツ合宿の誘致を行うなど、スポーツを活用した観光まちづくりを推進する。

【指標】スポーツ大会の誘致に合わせた観光イベントの開催数

実績値		目標値	
平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
—	—	1回	2回



▲霞ヶ浦湖岸を利用したサイクリングイベント

*¹ スポーツツーリズム:スポーツを「する」「観る」「支える」ための旅行や、これらと周辺地観光を組み合わせた形の旅行のこと。

4. スポーツ施設の充実

目指すべき主なゴール



市民が安心して運動・スポーツ活動を行えるよう、感染症対策などに留意した施設の管理や施設の点検整備などスポーツ施設の安全確保に努めるとともに、利用者の利便及び質の向上を目指した施設の整備・充実を図ります。

また、小美玉市における質の高いスポーツ活動を実現するため、スポーツ施設の整備や既存施設の適正な維持管理について長期的な視点で検討します。

さらに、誰もが利用しやすいスポーツ施設を目指し、施設のバリアフリー化や施設予約システムのデジタル化など利用環境の充実を図ります。

基本施策

1 スポーツ施設環境の充実

◆現状と課題

市民誰もがライフステージに応じたスポーツ活動に取り組むためには、安全・安心に利用できる環境の整備・充実が大切です。

公共のスポーツ施設は市民がスポーツ活動を行う上での拠点であり、健康増進や健全育成、競技力の向上、地域コミュニティの場など多様な機能を担っています。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大によって施設閉館や利用制限が行われ、市民の活動も制限されました。

今後はウィズコロナを踏まえながら、施設以外でも気軽にスポーツ活動に親しめる場所を提供していく必要があります。

令和3年度アンケートのスポーツ振興全般における充実度・必要性調査によると、スポーツ施設については「充実度」が高くおおむね満足しているものの、同時に「必要性」も高いという特徴があります。また、自由回答でも、「施設・整備・システムに関すること」については最も意見・要望が多く、施設に関する市民の関心の高さがうかがえます。

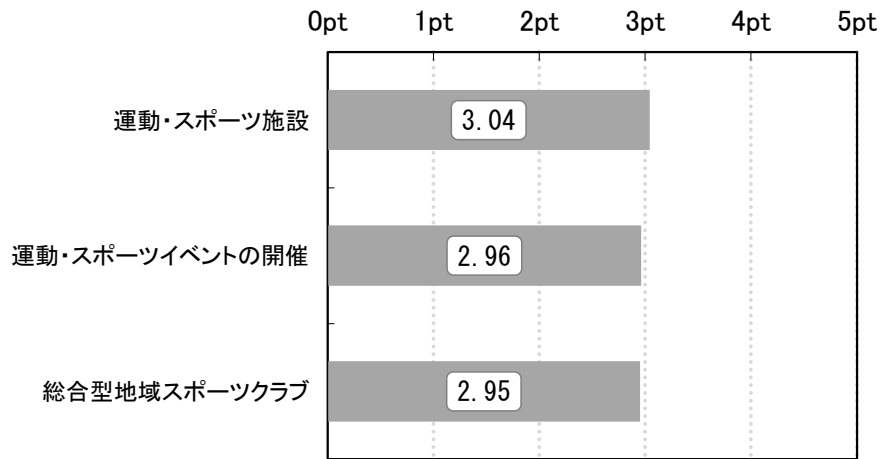
公共のスポーツ施設は合併前に整備されたものが多く、近年は老朽化が進んでおり、様々な課題があります。

そのため、誰もが安全で快適にスポーツに親しめるように、感染症対策を実施しながら、適切な施設整備及び維持管理を行うことが大切です。さらに、老朽化する施設の適切な維持・補修や市民ニーズの高いスポーツ施設の計画的な整備・改修をしていく必要があります。

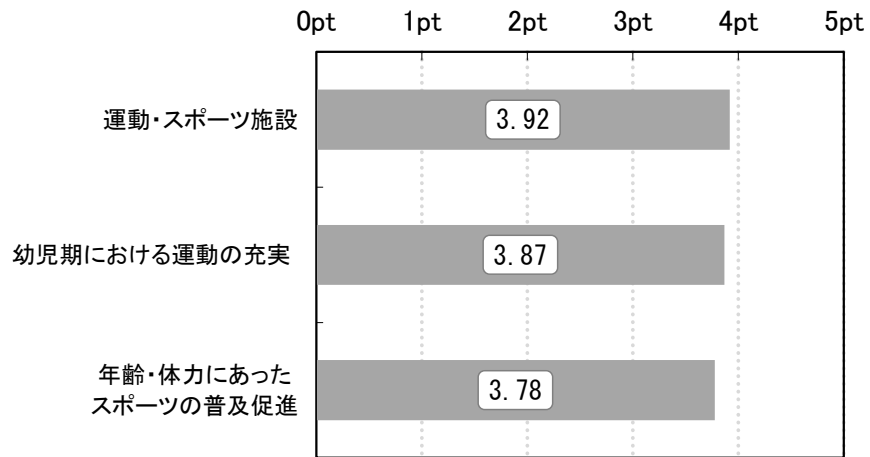
◆施策の方針

○市民が安心して運動・スポーツ活動を行えるよう、施設の維持管理や点検整備などスポーツ施設の安全確保に努めるとともに、利用者の利便を図るための施設・設備の充実を図ります。

■小美玉市のスポーツ振興全般において、充実度が高いもの(トップ3)

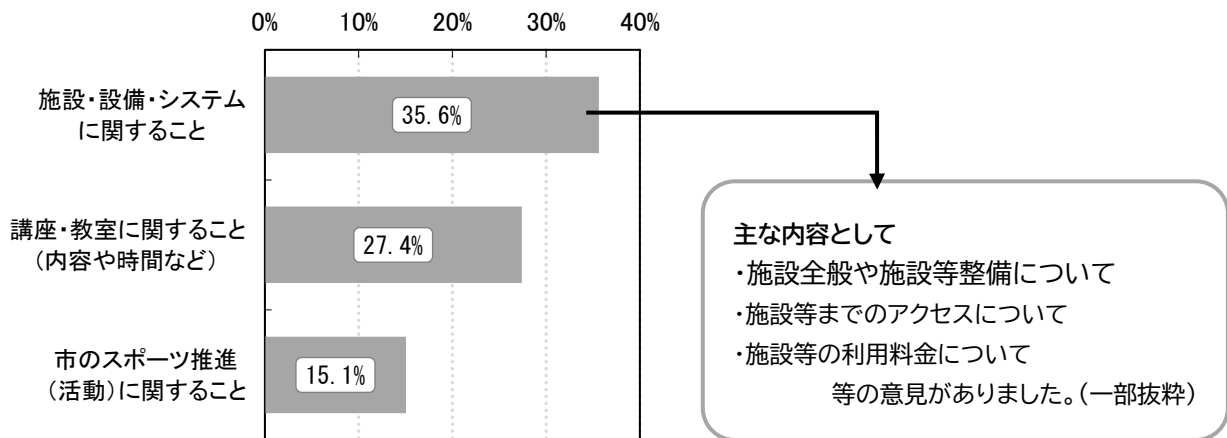


■小美玉市のスポーツ振興全般において、必要性が高いもの(トップ3)



※(低)0~5pt(高)

■小美玉市のスポーツ振興についての意見要望(トップ3)



出典:令和3年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

基本方向① スポーツ施設の安全確保

市民が安心して施設を利用できるよう、適正な維持管理、安全確保を図ります。

主な取組

● スポーツ施設維持管理

【スポーツ推進課】 継続

スポーツ施設の適正な維持管理を行うとともに、感染症対策など「新しい生活様式」に留意しながら、市民が安全・安心に運動・スポーツ活動ができるよう努める。

【指標】スポーツ施設利用者数(年間延べ)

実績値		目標値	
平成 28 年度	令和3年度	令和4年度	令和9年度
173,900 人	151,924 人	207,600 人	240,700 人



▲玉里運動公園



▲小川海洋センター

基本方向② スポーツ環境の整備・充実

質の高いスポーツ活動を実現するため、スポーツ施設の整備や適正な管理について長期的な視点で検討します。また、地域環境やオープンスペース、既存施設等を有効活用するなど、スポーツ施設以外でも誰もが運動・スポーツを楽しめる場の創出を図ります。

主な取組

● 施設改修(長寿命化)の推進

【スポーツ推進課】

重点

継続

誰もが安全で快適にスポーツに親しめるよう、公共施設建築物系個別施設計画に基づき、市内スポーツ施設の長寿命化、改修・バリアフリー化などを実施し、既存施設の必要かつ適正な管理を進め、利用者の利便性の向上を図る。

● スポーツ施設等の設備更新・整備

【スポーツ推進課】

重点

継続

施設の設備更新や整備を推進し、誰もが利用しやすい施設づくりを推進する。

● スポーツに親しめる場の創出

【スポーツ推進課】

新規

地域資源、公園や広場などのオープンスペースや空きスペースなどを有効活用し、施設以外でも、市民誰もが気軽に運動・スポーツを楽しめる場所づくりを各種団体や地域と連携しながら検討する。

◆現状と課題

本市のスポーツ振興全般における充実度・必要性が高いもののトップにスポーツ施設があげられていますが、一方で施設の利用度は全体的に低い傾向にあります。

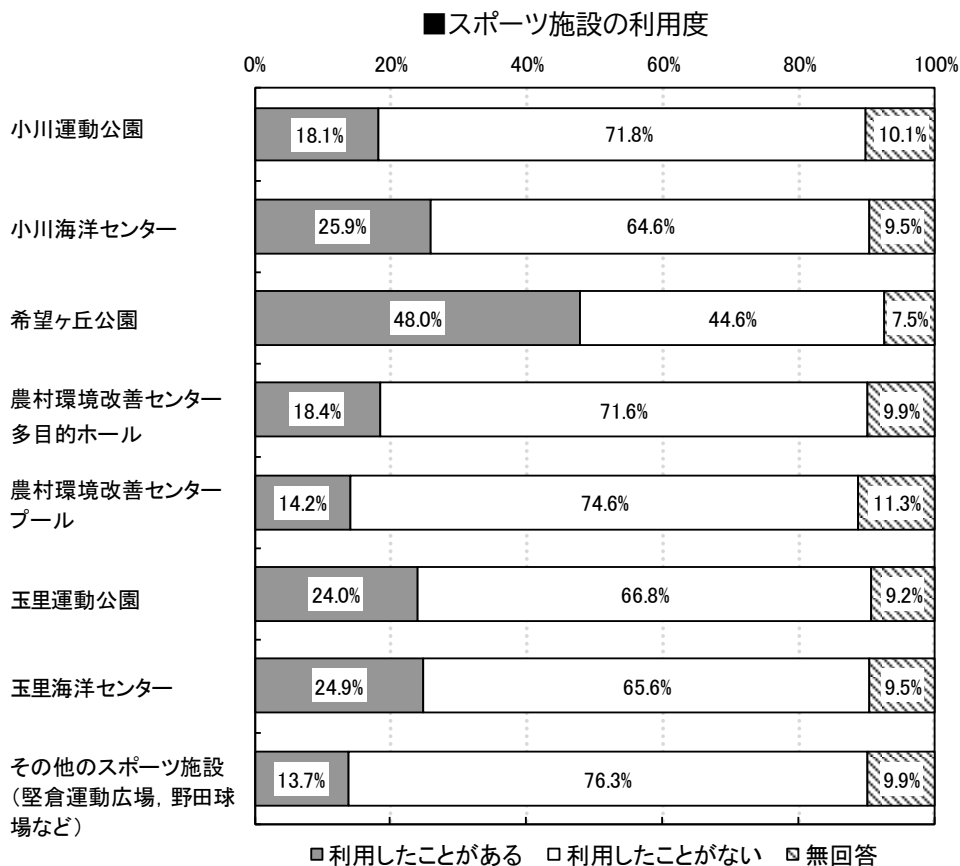
利用しない主な理由としては、「交通の便が悪い」「利用したい設備がない」「申し込み・手続きが面倒」といったものがあげられています。申し込みや手続きの面においては、令和2年度にWEBから利用予約ができる公共施設の予約システムを導入し、利便性が向上しており、今後も使いやすいシステムの充実に取り組んでいくことが大切です。引き続き、施設の利用促進を図るために、課題改善に努めていく必要があります。

また、「基本方針2－基本施策3 障がい者に対する運動・スポーツの推進」(P.46)において述べたとおり、「障がい者スポーツ環境の充実」は特に改善が必要となっており、施設のバリアフリー化等を推進していくことが大切です。

本市のスポーツ施設においては、市民の誰もが安全・安心に利用できるよう環境の整備・充実及び利便性の確保に努め、より一層の利用度向上を図っていく必要があります。

◆施策の方針

○誰もが利用しやすいスポーツ施設を目指し、施設のバリアフリー化の促進や施設利用システムの充実を図ります。



* 農村環境改善センターのプールは施設の老朽化に伴い、令和元年度より閉鎖。
また、多目的ホールは令和2年度より所管が生涯学習課に移行。

出典:平成28年度「小美玉市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査結果(一般)

基本方向① 施設のバリアフリー化の推進

進入路、トイレ、段差解消など、誰もが利用しやすいスポーツ施設を目指し、施設のバリアフリー化を促進します。

主な取組

● 施設改修(長寿命化)の推進【再掲】(P.71)

【スポーツ推進課】

重点

継続

基本方向② 公共施設予約システムの活用

公共のスポーツ施設の利用を促進するため、市民が利用しやすい予約システムの維持管理・充実を図ります。

主な取組

● 予約システムの有効活用

【スポーツ推進課】

継続

市民の利便性向上のため、公共施設予約システムの維持管理・充実に努めるとともに、システムの周知を図る。



▲公共施設予約システム まちかぎりリモート予約画面



▲公共施設予約システム まちかぎりリモート